

# リスク許容度

文：児玉 晋

## 板書例

リスク許容度... 投資における損失をどの程度までなら受け入れられるか

リスクの許容度は個人によって大きく異なるので  
自身のリスク許容度に応じた資産運用を考えることが大切。

### ★ 影響を及ぼす要因

- 1) 年齢や投資期間
- 2) 今後のライフイベント
- 3) 家族構成, 家計の4又支
- 4) 個人の性格

その他、健康状態、投資知識や経験の有無なども

### ★ リスク許容度に基づいた資産運用

例) 老後資金を準備する場合 → 若いときは株式メイン、  
60代近くなったら債券メインなど

リスク許容度とは、投資において損失を被ってしまった場合、その損失をどの程度まで受け入れることができるかということを意味しています。この許容度は、年齢や職業、家族構成、投資期間や投資目的などの違いによって異なり、必ずしも数値化できるわけではありません。ただ、一般的に投資による損失を被ったとしても日常生活や将来のライフプランの実現に大きな影響がない状態であれば、リスク許容度が高い状態と言えるでしょう。そして、実際の資産運用においては、自身のリスク許容度に応じた運用手法をとることが大切です。ここでは、リスク許容度とそれに基づいた資産運用の手法について、基本的な考え方を理解しましょう。

## リスク許容度に影響を及ぼす要因

### 1. 年齢や投資期間

一般的に年齢が若いほど、リスク許容度は高いと言えます。損失を被ってもそれを挽回できる時間が長いからです。また、資金の使用予定がかなり先の時期にある場合も、同様に許容度は高くなります。つまり、運用期間が長く取れるほどリスク許容度は高くなると言えます。

### 2. 今後のライフイベント

今後控えている出費を伴うライフイベントもリスク許容度に影響します。近いうちにライフイベントを控えている人はリスク許容度が低く、逆にしばらくライフイベントがない場合などはリスク許容度が高くなると言えるでしょう。例えば、近く転職や結婚、子供の教育資金の支出を予定しているといった場合、大きなリスクは避けたいところです。

### 3. 家族構成、家計の収支

家族構成や家計の収支状況によっても、リスク許容度は大きく異なりますが、一般的に収入に比べて支出が少ない場合は、リスク許容度が高くなる傾向にあります。

### 4. 個人の性格

リスク志向の投資をする人、たとえば、比較的风险が高い株式によく投資をする人は、性格的に値動きに耐えられるという点でリスク許容度が高いと言えます。一方、「株価が下がると心配で眠れない」という人は、リスクを取りすぎないようにしたほうが良いでしょう。

ここまで、リスク許容度に影響を及ぼす代表的な要因を紹介しましたが、その他にも健康状態や投資知識・経験の有無などがあります。

## リスク許容度に基づいた資産運用の手法

預貯金や株式、債券など金融商品にはそれぞれ特徴があるため\*、自身のリスク許容度に応じた金融商品を選択することが大切です。例えば、支払時期が近づいている教育資金や老後資金など、極力リスクを回避したい場合は預貯金などで確実に貯め、一方、特定の目的を定めない余剰資金の運用の場合には、株式など比較的风险は高くなるもののその分収益性が期待できる金融商品に投資することもできるでしょう。

また、リスク許容度は変化し続けるため、例えば、老後資金を準備する場合、年齢が若い時は株式の比率を高くして積極的に運用し、60歳代の取り崩し時期が近づくとつれて債券の比率を高めていくなど、自身のリスク許容度の変化に応じた金融商品の組み換えをすることも大切です。

なお、リスク許容度が高い場合には必ずリスクを取ったほうが良いということではありません。本人や家族の希望するライフプランを実現するために必要な金額を試算し、自身のリスク許容度に応じて適切なリスクを取ることが最も重要になります。

今回は、自身のリスク許容度の判定に役立つ考え方を紹介しました。しかし、実際に投資を始めようとする場面では、年齢が若くリスク許容度が大きい状況でも、収入が少ないがゆえに資金が少ないといったジレンマがあるのも実情です。このような状況においてもリスクを取りすぎてしまう人たちがいるため、実は、自分自身の欲が適切なリスク許容度の判定を感ずる要因になることも知っておきましょう。

※ 金融商品の特性については、[メルマガvol.250](#)をご参照ください。

● 内容については万全を期しておりますが、配信時現在の情報を基に執筆していること、執筆者個人の見解も含まれていることをご理解のうえ、ご利用ください。

